

専修大学

図書館だより

第54号
2004.12



高橋勇文庫(黒龍文庫)所蔵『満洲国の紙幣』

目次

「スポーツと図書館」(図書館委員会委員 佐竹 弘靖).....	2
シリーズ ムーサの神殿 貴重書紹介 御伽草子絵巻『七夕のさうし』石黒 吉次郎.....	3
中間報告「図書館アンケート」.....	4
展示紹介(本館・神田分館).....	5
データベース紹介「eol DB Tower Service イーオーエル」.....	6
ESSAY 読書という「衝撃」.....	6
各館トピックス.....	7
図書館インフォメーション.....	8

スポーツと図書館

図書館委員会委員 佐竹 弘靖



近代オリンピック発祥の地アテネで第28回オリンピックが開催され、見事な閉会式とともに次回開催地北京へオリンピック旗が無事手渡されました。日本選手の毎日の大活躍に一喜一憂されたことでしょう。

しかし、今回のオリンピックでもやはり社会的な問題が後を絶ちませんでした。国際テロの恐怖は一日たりとも忘れることができませんでしたし、ハンマー投げ金メダリストに代表されるように多くのドーピング疑惑も依然解決していない状況です。スポーツは、「スポーツマンシップのみで語られることができなくなった現実を直視しなければならない」という物語っているように思えてなりません。

だからこそ、スポーツはより広い視野から多角的な学問的調査・研究が必要となるのです。日本においては、オリンピックなどの国際舞台で戦えるトップアスリートを養成する指導法や技術分析を中心とするスポーツ科学はもちろんのことですが、高齢化社会を迎えた現在、いかに健康を維持・増進していくかを学ぶ健康科学ばかりでなく、スポーツをすることによって、将来かかる医療費をどれほど抑えることができるのかといったスポーツ経済学も注目されています。また、このスポーツ経済学は「リーグやプロ野球などわが国に根付いたプロスポーツ経営にも欠かせない学問となっています。

さらには、プロ野球70年史上初めてのストライキが先日決行されました。労使・経営権を前面にメディアが取り上げない日はありませんでした。これは明らか

にスポーツに関する法律を十分理解しておかなければならないことを教えてくれます。非常に新しい学問ではありますが、スポーツ法学が脚光を浴びています。先ほど述べましたテロにかぎらずスポーツを取り巻く国際問題や社会問題はスポーツ政治学やスポーツ行政学、ドーピング問題ではスポーツ医学とそれは多岐に渡ります。

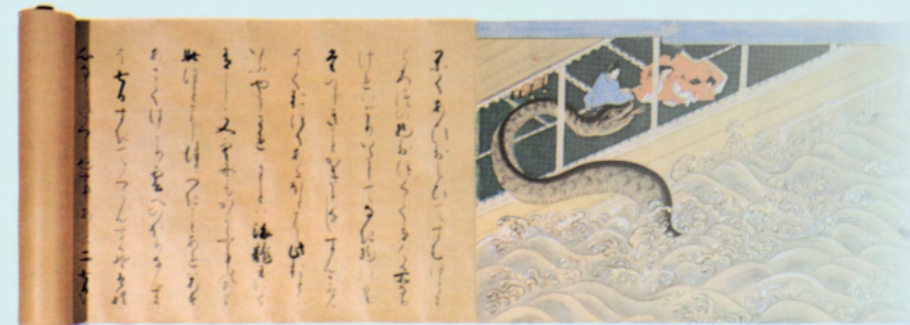
ただ、以上のような学問は、政治学や経営学、社会学、歴史学、医学といった専門的な知識の助けが必要となるのは確実です。そういった文献や資料を個人で収集し手元に置くのはとても難しいでしょう。そこで、図書館の有効利用が不可欠となってきます。図書館の膨大な蔵書もさることながら、データベースやインターネットなどを駆使して一瞬に入手できる情報はかけがえのない大切なものです。本学図書館には、スポーツに関する書籍や資料はそれほど多いとは言えません。しかしながら、専門書については長い歴史に支えられかなり充実しています。

興味ある分野の一冊を、広く静かで綺麗な本学図書館でひろげてみてはどうでしょうか。そして、それが現代スポーツとどう結びついてくるのかを考えてみる時間にあててみてください。皆さんの創造力が日本スポーツの将来を支えてくれると大げさではなく信じています。本学図書館はその一助をなす貴重な場であらうとこれからも尽力していきます。

(さたけ ひろやす：ネットワーク情報学部教授)

御伽草子絵巻『七夕のさうし』

石黒 吉次郎



卷子本(全長21.19米 幅33.8釐)
江戸時代初期写



数ある専修大学図書館所蔵の貴重書の中でも、『七夕のさうし』はその絵画のあざやかさで、ひときわ目に付く作品であろう。御伽草子とは、別名室町物語などともいわれるが、室町時代を中心とした庶民的な短編の物語の類で、写本・版本のほか、絵巻や奈良絵本といわれる冊子本の形態を取るものが多い。後者には奈良絵と呼ばれる極彩色の挿絵があって、特に絵巻仕立ての場合、その豪華な絵を鑑賞しながら、詞書を読んで楽しむことになっていた。

『七夕のさうし』は『天稚彦(あめわかひこ)物語』という御伽草子の別名で、伝本が多く遺されている。この物語には、大蛇怪婚系と公家物語系の二種類がある(『お伽草子事典』参照)。専修大学所蔵のものは、大蛇怪婚系に属する。専修大学本によって概要を示す。

「昔長者の三人娘に大蛇が求婚し、仕方なく末の娘が承諾し、池に行った。大蛇が現われ、自分の頭を切れといい、娘が切ると、美男が出てきて、娘は喜んで夫婦となった。男は実は海竜王で、ある時空に昇ることになり、妻にもし自分が帰らなければ、西の京の女の一夜ひさごという物で空に昇れ、そこで天稚彦はどこかと問えといい、また唐櫃を開けないようにといって昇っていった。夫の留守中に妻の姉達がやってきて、唐櫃を開けると、中から煙が立ち昇った。夫が帰らないので、妻は夫の言った通

りにして空に昇り、天稚彦の居場所を星々に聞き、ようやく夫に再会した。夫の父は鬼で、妻はしばらく隠れていたが、まもなく見つかり、鬼に連れられて野原に行き、数千頭の牛を飼わせられた。妻は夫の助けでこれをなしとげた。次に蔵にある米千穀を運べといわれ、たくさんの蟻の助力でこれもなしとげた。またむかでの蔵や蛇の蔵に閉じ込められたが、無事にやりすごした。鬼は二人の結婚を許し、月に一度だけ会えといったが、妻は一年に一度と聞き違えた。鬼が瓜を投げると、それが天の川となった。夫は彦星、妻は七夕とあって、毎年7月7日に会うことになった。」

七夕の由来を語るロマンチックな物語で、昔話のモチーフにも共通する点がある。ほかにもこの物語はさまざまな問題をはらんでいる。この作品の研究が進んでいるが、その際に専修大学本が重要なテキストとなっていることはいうまでもない。この『七夕のさうし』は、縦が33.8センチ、長さが21メートル19センチで、本紙34枚の紙継ぎ、詞書が13段、絵が13図からなっている。江戸時代前期にできたもので、それだけに絵もまだ鮮明である。昭和21年、フランス人のアンベルクロード神父によって、一時海外に出ていたものだったが、昭和50年頃に日本に戻ってきた逸品である。

(いしくろ きちじろう：文学部教授)

「図書館アンケート」

～ご協力ありがとうございました～

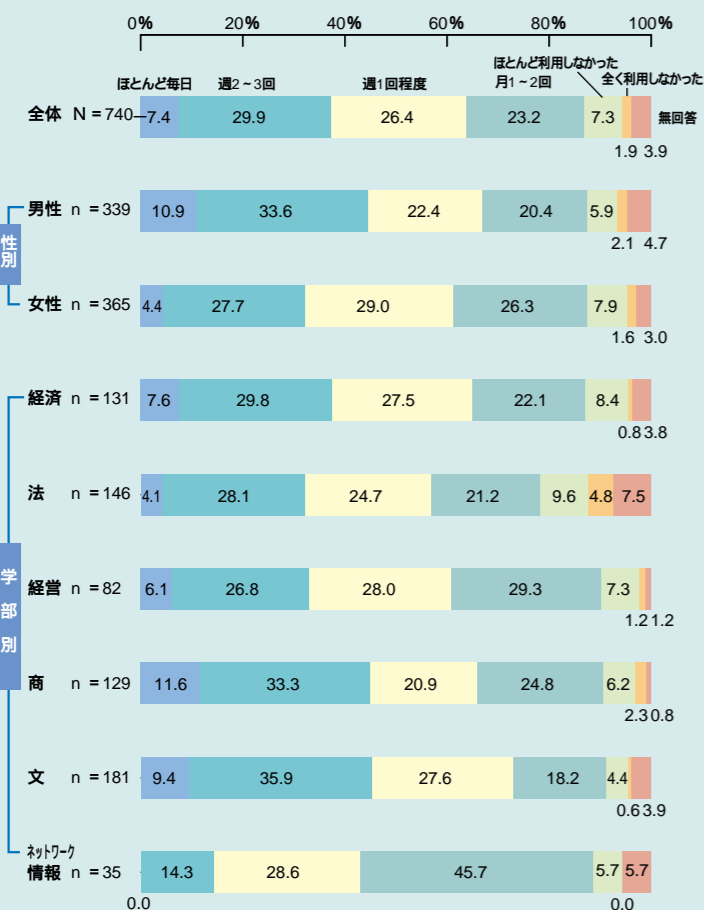
図書館では、今年、利用者の皆さんが図書館に対してどのような要望や期待を抱いているのか、改善すべき課題は何かを明らかにするため、アンケート調査を実施しました。3年次生（一部学生4,528名）を対象として、6月28日付けで、自宅にアンケート用紙を送付しました。有効回答は740通でした（回収率16.3%）。

今回の調査によって、本学の学生が図書館をどのように利用しているのか、図書館に来る学生と来ない学生は、どのような意識の違いがあるのかなどが新たにわかりました。さらに、図書館の今後のサービスとして、どのような可能性があるのかを知ることができました。本学図書館に対して望むことや、日ごろ思っていることの自由記述では、開館時間の延長、日曜開館、飲食物の持ち込み、新刊書や視聴覚資料の充実など、さまざまな要望や意見が寄せられました。カウンターでの対応についても、

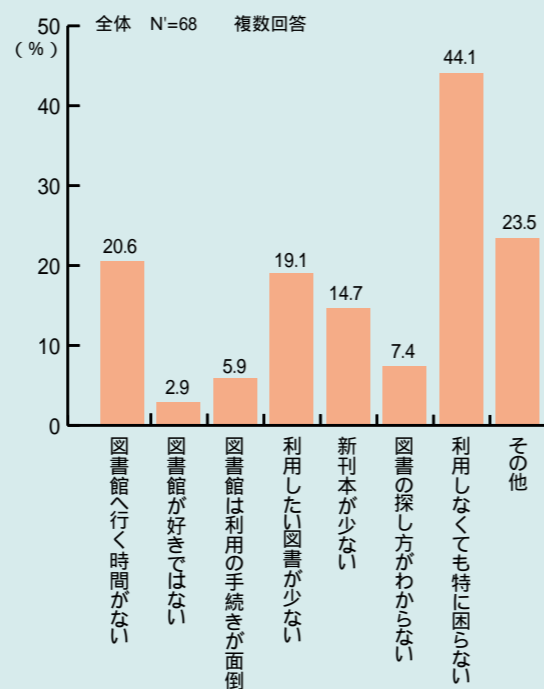
「親切に相談に乗ってくれてよかった」などがある一方、「図書館員の態度がよくない」、「いやな思いをした」などの耳の痛い言葉もありました。また、「自分のパソコンを持ち込みたい」、「学生証を忘れて入館できなかった」など、すでに行なっているサービスが知られていないケースもあり、図書館活動の周知方法や広報に課題があることなどもわかりました（使う場所は限られますが、自分のパソコンを持ち込んで無線LANを利用することはできますし、学生証を忘れても、カウンターで手続きをすれば入館できます）。

このアンケートの調査結果の詳細については、『専修大学図書館利用アンケート報告書』（仮）として冊子にまとめ、希望者に配付する予定です。多くの意見を参考にし、より利用しやすい図書館になるよう努力していきたいと思っております。ご協力ありがとうございました。

昨年一年間での利用頻度



「ほとんど利用しなかった」「全く利用しなかった」層の非利用理由



I KUTA 本館

日露戦争から太平洋戦争の終戦まで 戦争と日本国民の生活をみる

期間：平成16年10月1日(金)～12月24日(金)
場所：本館3階ブラウジング・プラザ



今年(2004年)は、日露戦争開戦から100年、太平洋戦争(第2次世界大戦)終戦から59年の年にあたります。

今日の日本の繁栄は、多くの人々の大変な思い、苦しみ、悲しみなど、国内外の計り知れない悲惨な体験の

うえに成り立っているといっても過言ではないでしょう。

専修大学図書館には、戦争関係の図書資料として「児島襄文庫」と「高橋勇文庫」があります。「児島襄文庫」は作家で戦史研究家の故児島襄氏が収集・愛蔵した日本近代戦史関係のコレクションです。また、「高橋勇文庫」は資料収集家である高橋勇氏が義勇軍として満

州に渡り、その後、病死した兄のことを知るために収集した旧満州関係のコレクションです。この文庫は満州を流れる黒龍江(アムール川)に由来し、別名「黒龍文庫」といいます。

「戦争を知らない世代」が大半になりつつありますが、この展示を通して、今一度、戦争について考えてみてはいかがでしょうか。



KANDA 神田分館

「ナショナリズム グローバル化する世界の中で」

期間：平成16年10月25日(月)～12月11日(土)
場所：神田分館1階

東西冷戦構造が崩壊して間もなく、「グローバリゼーション」という言葉がまだ新鮮な響きをもって私達の耳に響いていた頃。私達は何となく、これからの世界は相互の結びつきをますます強め、普遍的な価値観のもとに、より統一されたものによってゆく、というような思いを馳せたのではなかったでしょうか。しかし、21世紀を迎えた世界の現実、その思いとは裏腹に国家(国益)、民族、

宗教を背景としながら様々な課題を抱え込んでいます。国家の樹立および独立を勝ち取るためにテロをも辞さず、に戦い続ける民族の姿や、「自由と民主主義」といった近代的理念よりも、民族の歴史に根ざした伝統から生ずる価値観を頑なに守ろうとする民族の姿を、私達日本人はこのグローバリゼーションの時代に見ることとなりました。



本展示では、このような時代背景をもとに、「ナショナリズム」をテーマとし、それについて様々な観点から論述した資料を展示しています。これは、政治学を確かな足がかりとして世界のナショナリズムと自己の内に宿るナショナリズムに対する正しい理解に到達しようとする試みです。

展示パンフレットには、深澤民司法学部教授による解説「ナショナリズムとグローバリゼーション」が掲載されています。ぜひ、ご覧ください。

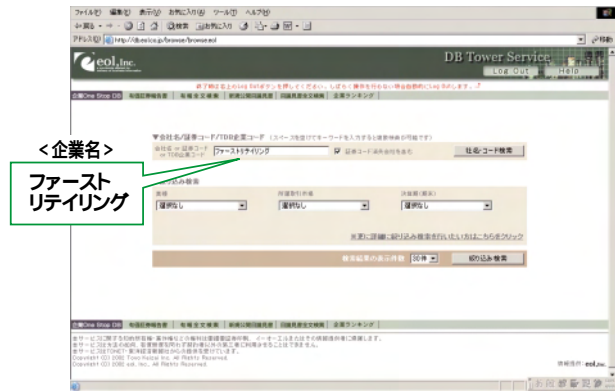
eol DB Tower Service イーオーエル

■ eol DB Tower Serviceとは? ■

全国証券取引所およびJASDAQ上場企業(約3,600社分)の有価証券報告書(1984年~)・半期報告書(1997年~)を収録しています。

■ どこで使えるの? ■

本館4F AVプラザ、生田分館、神田分館、法科大学院分館の情報検索コーナー、情報科学センター研究室等の学内LANに接続されたパソコンで利用できます。図書館ホームページの「外部データベース」の項からアクセスしてください。



「企業One Step DB」の画面

■ 使い方 ■

「企業One Step DB」の画面に、「会社名」または「証券コード」を入力して検索します。次の画面で閲覧したい企業名をクリックすると、「企業基本情報」と「有価証券報告書」の年度別一覧が表示されます。「有価証券報告書」の年度別一覧内をクリックすると、内容がPDFファイルで表示されます。この他にも「有報全文検索」や「企業ランキング」など、便利な機能がありますので、色々試してみてください。



ファーストリテイリングの「企業基本情報」と「有価証券報告書」一覧

ESSAY

読書という「衝撃」

私がまだ産まれる前、安保をめぐる学園紛争があった。今でもテレビや本でその様子を窺うことができる。その時の自己をめぐる、高橋和巳(当時、京都大学の助教授)は、『わが解体』初版(河出書房新社(1971))に纏めている。その中の一文に「学園紛争の中で、私をともかくも支えてきたもの、その同じものが、目下の自己の身分や地位のありようが虚偽であると自分に告げる。私を支えるものは文学であり、その同じ文学が自己を告発する。」(p.75)とあり「衝撃」を受けた。この一文は、大学に入学する前に、ある先生から聞いた。数年後、「衝撃」の余韻が残り、同書を読みたが、この一文が今でも印象に残る。私が今、専門としているのは日本古典文学であり、高橋和巳がこの時に「支えるもの」であり「告発」したものが「文学」であるという共通点もあろう。確かに今の院生という立場は、地位も何もなく、単なる「学生」である。しかし、専

西野 強
文学研究科日本語・日本文学専攻
博士後期課程

門として研究する為に自分を「支えているもの」が「文学という学問が好き」という一心であるが、対象となる文学が自らの学問に対する甘さを叱る。あの時、この一文を教えてもらい、『わが解体』を改めて読むことで深く心に刻まれ、今の自分の院生生活に影響を与えた。私が『わが解体』を読んだとき、今の生活など考えてもなかったが、現に今は院生となった。結果として、その時の「衝撃」が今の院生としての生活の支えとなってしまったのは、出会うべくして出会った一文と思うと、その事実も「衝撃」であった。(にし つよし)



『わが解体』
高橋和巳著
河出書房新社 1971

専修大学図書館 本館

卒論・レポートのための情報検索講習会の報告

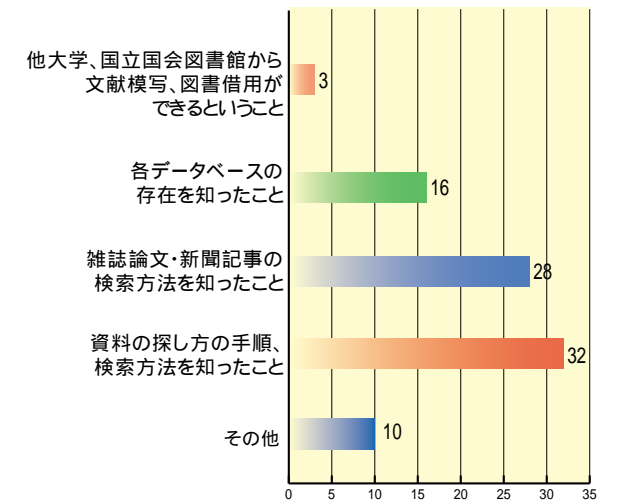
情報検索講習会を終えて

本館では、「卒論・レポートのための情報検索講習会」を10月18日(月)~22日(金)の期間、1日4回、5日間で20回開催し、学年では特に3・4年生、学部では文学部、経済学部の学生が多く、参加者の合計は90名でした。この講習会では幅広く日本語の資料を収集する方法を目的とし、図書、雑誌論文、新聞記事を探すための外部データベースの紹介と実習を行いました。参加者へのアンケートでは、「資料の調べ方について、効率のよい方法がわかった」「新聞記事、雑誌論文の検索方法を初めて知った」という感想が大半を占め、本講習会で紹介した雑誌記事索引「MAGAZINEPLUS」、新聞記事データベース「日経テレコン21」「聞蔵 DNA for Libraries」の存在をまだ知らない利用者が多いこともわかりました。

図書館では、今後も定期的にこのような講習会を開催し、論文、レポート作成の支援をしていく予定です。

です。また、様々な手段で外部データベースの利用を普及させていきたいと考えています。

「講習会に参加して役に立ったこと」



生田分館

生田分館情報検索室について



生田分館では、9月1日より情報検索室(1階)の利用が可能になりました。新規に導入された検索用端末は6台、利用できるデータベースは本館に準じます。(無料のデータベースのみ)

また、従来のOPAC 3台に加え、多言語対応の端末機1台が新設され「中国語」「朝鮮語[韓国語]」の蔵書検索も情報検索室で出来るようになりました。情報検索と併せて利用してください。

神田分館

電卓・ノートパソコン利用エリアを拡大

電卓やノートパソコンが利用できる場所としてこれまで地下1階にラウンジを設けていましたが、11月1日からはあらたに、「自由閲覧室1」の一部にも利用可能なエリアとして30席設定しましたので利用してください。ただし、ノートパソコンはバッテリー駆動での使用をお願いします。



図書館 インフォメーション

< 図書館カレンダー >

12 月							1 月							2 月							3 月							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
			1	2	3	4							1			1	2	3	4	5			1	2	3	4	5	
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12	6	7	8	9	10	11	12	
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19	13	14	15	16	17	18	19	
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26	20	21	22	23	24	25	26	
26	27	28	29	30	31		23	24	31	25	26	27	28	29	27	28						27	28	29	30	31		

開館時間：無印 本館・生田分館 月～金 9:00～21:00 (土曜日は19:00)
 神田分館・分室 月～土 9:00～22:00
 ★印 本館・生田分館 月～金 9:00～17:00 (土曜日は12:00)
 神田分館・分室 月～金 9:00～19:30 (土曜日は14:30)
 ◎印 本館・神田分館 日 10:00～17:00 (生田分館・神田分室は休館)

休館日：全館休館 ※本館・生田分館休館

- 開館時間の変更および臨時の開館日・休館日は、その都度ホームページや掲示で案内します。
- 法科大学院分館の開館情報は「専修大学図書館カレンダー(法科大学院分館)」をご覧ください。

お知らせ

■ 学部試験前における日曜開館について

前期試験前の日曜開館に引き続き、12月、1月の後期・学年末試験前に、次のとおり日曜開館を行います。図書資料の閲覧、複写、貸出・返却及びOPACの利用ができます。是非、ご利用ください。

開館する図書館：本館・神田分館

開館日：平成16年12月12日、19日、26日
 平成17年1月9日

開館時間：10時～17時

■ 12月から3月の日曜・祝日以外の休館日

(本館・生田分館・神田分館・神田分室)

12月27日(月)～1月7日(金) 冬期休暇

1月15日(土) 大学入試センター試験 本館・生田分館のみ

2月1日(火) 地区入試

2月9日(水)～2月14日(月) 一般入試期間

2月28日(月) 一般後期入学試験

3月22日(火) 卒業式(学部)・学位記授与式(大学院)

■ 冬期・春期特別貸出

	冬 期	春 期
取扱期間	平成16年12月6日(月)～12月22日(水)	平成17年1月28日(金)～3月19日(土)
貸出対象者	学部学生(聴講生、科目等履修生を含む)	
冊数	10冊まで(通常の貸出冊数と同じ)	
返却期限日	平成17年1月12日(水)	平成17年4月8日(金)

■ 卒業年次生・大学院修了年次生の皆さんへ

卒業年次生・大学院修了年次生の返却期限日は次のとおりです。

返却期限日：平成17年3月3日(木)

図書館では、毎年、図書を借りたまま卒業する利用者が大変困っています。在学生に迷惑がかからないように、図書館から借りている図書について、確認をお願いします。紛失、問合せ等はカウンターで受付けます。

■ 新規購入希望雑誌の推薦締切日が変わりました

新規に雑誌の購入を推薦する場合は、図書と同様に「専修大学図書館図書購入基本カード」を記入の上、図書館のカウンターに提出してください。推薦のあったものについて、雑誌検討委員会で検討のうえ、新規購入雑誌を決定します。

なお、ご希望に添えない場合がありますのでご了承ください。推薦締切日および購入開始時期は次のとおりです。

	推薦締切日	購入開始時期
和 雑 誌	平成17年10月末日	平成18年8月
洋 雑 誌		平成19年1月

※和雑誌・洋雑誌ともに年1回の締切りとなりました。

専修大学図書館だより 第54号

発行日：2004年12月1日

編集・発行：専修大学図書館 館長 大庭 健

専修大学図書館 本 館 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1 〒214-8580 Tel.044-911-1274
 生 田 分 館 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1 〒214-8580 Tel.044-911-7138
 神 田 分 館 東京都千代田区神田神保町3-8 〒101-8425 Tel.03-3265-8339
 法 科 大 学 院 分 館 東京都千代田区神田神保町3-8 〒101-8425 Tel.03-3265-6914
 神田分館7号館分室 東京都千代田区神田神保町3-8 〒101-8425 Tel.03-3265-6366

専修大学図書館ホームページ URL: <http://www.lib.senshu-u.ac.jp/>

ニュース!

3つの個人文庫紹介

この度、次の個人文庫の整理が終了しました。どうぞご利用ください。

配置場所: 本館M3階ピンク区画

内田義彦文庫

内田義彦氏(1913-1989)は、愛知県出身で、東京帝国大学経済学部卒業後、同大学大学院を経て、昭和21年(1946)に本学に入職しました。以後昭和58年(1983)に定年退職するまでの37年間、経済学部教授、商経学部長、評議員、理事などを歴任し、主として経済学史を担当しました。主要著書『経済学の生誕』(1953)は、日本におけるスミス研究の水準を飛躍的に高め、古典としての評価を確立しました。また、経済学説史にとどまらず独自のマルクス研究や近代日本思想の研究家として、戦後日本を代表する社会学者の一人です。

文庫の内容は、経済学史をはじめ近代日本思想史や文学、芸術など、人文・社会科学全般に亘る約3,400冊(和書3,200冊、洋書200冊)から成り、内田義彦氏の研究テキストや数多くの著作物が含まれています。

高橋勇文庫(黒龍文庫)

旧満州関係資料の蒐集家である高橋勇氏(1932生)は、千葉県出身で、警察予備校(現自衛隊)、伊藤忠自動車、東京洋服商工協同組合事務局などを歴職しました。現在は、芝山町立芝山古墳・はにわ博物館友の会会員で、埼玉県草加市に在住しています。

文庫の内容は、日本が昭和6年(1931)に満州事変を契機に中国東北部に侵略し、昭和7年(1932)に傀儡政権として建国した「満州国」に関する文献群です。和書約5,500冊、和雑誌240タイトルから成り、旧満州の正史というより野史を中心に収集し、埋もれていた満州史の発掘に重点が置かれているところに特徴があります。

児島襄文庫

児島襄氏(1927-2001)は、東京都出身で、東京大学法学部卒業後、同大学大学院修了し、昭和29年(1954)に共同通信社に入社しました。その後、昭和39年(1964)に退社し、作家活動に入りました。代表著作としては、『太平洋戦争』(1966)(毎日出版文化賞)、『東京裁判』(1971)、『天皇』(1974)等多数あり、第38回菊池寛賞(1990)受賞、紫綬褒章(1993)を受章しています。

文庫の内容は、児島氏の著作物のほか、防衛庁防衛研修所戦史室編『戦史叢書』(1966-1980)をはじめとする、日露戦争から第二次世界大戦を中心とした戦争関係図書史料約9,800冊(和書7,300冊、洋書2,500冊)です。また、『明治三十七八年海戦史』『西南記伝』等、マイクロ資料のプリントやコピーを製本した資料も含まれています。